

09年度第1四半期 決算説明資料

2009年7月31日

沖電気工業株式会社

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

本日のご説明内容

2009年度 第1四半期決算について

- 1-1) P/Lの概要
- 1-2) 事業別セグメント情報
- 1-3) 営業利益の変動要因
- 1-4) B/Sの概要
- 1-5) キャッシュフローの概要

P/Lの概要

(単位:億円)	09年度	前年同期
売上高 (除く半導体)	826 (826)	1,253 (1,011)
売上原価	615	962
販管費	242	356
営業利益 (除く半導体)	△31 (△31)	△65 (△47)
営業外収支	△19	1
経常利益	△50	△64
特別損益	△7	△120
税引前利益	△58	△184
当期純利益	△67	△222

【対前年比較】

- 半導体セグメントが抜けた影響は、
売上高 242億円減収
営業損益 19億円改善
 - ▶ 販管費はこの影響のほか、固定費適正化効果により減少
- 特別損益は前年にたな卸評価基準変更等による評価損があったことから改善

【参考:平均為替レート】

	09年度	前年同期
USD	97.3	104.6
Euro	132.6	163.4

* 半導体事業は、前年10月に分社化の上株式を譲渡

事業別セグメント情報 サマリ

* 事業別セグメント情報では前年の半導体を除く

- 第1四半期の業績は、厳しい経済環境を踏まえ概ね想定どおり
 - 売上高は185億円減収の826億円
 - 営業損益は16億円改善し、31億円の損失

(単位:億円)	09年度		前年同期 (* 除く半導体)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信	469	0	550	△34
プリンタ	311	△10	388	10
その他	46	△7	72	△3
消去・本社費	—	△13	—	△20
合計	826	△31	1,011	△47

事業別セグメント情報 【情報通信】

■ 売上高

➤ 金融：

流通向けATMリプレースや営業店システムの大型案件が一巡することなどから減収。中国向けATMは引き続き堅調。

ATM: Automated Teller Machine

➤ 通信：

通信キャリア向けはGE-PONの出荷台数の増加に加え、コアNWや既存NWが増加したことにより増収。企業向けは前年並み。

GE-PON : Gigabit Ethernet Passive Optical Network

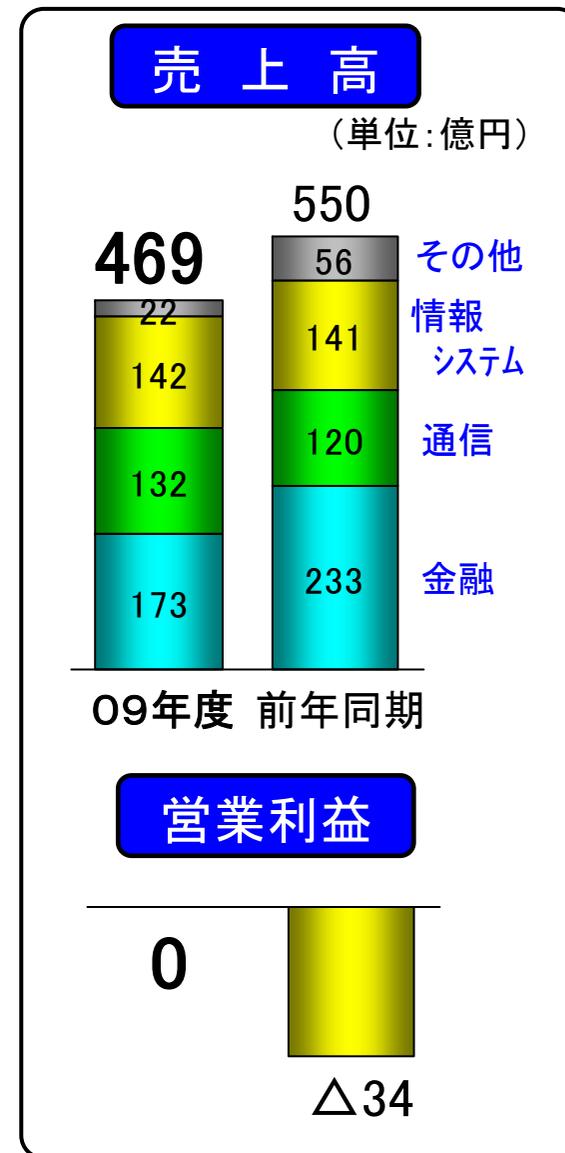
➤ 情報システム：

官公庁向けは増収となるものの、法人向けは大型案件一巡などにより減収となり、全体では前年並み

■ 営業利益

減収による限界利益の減少はあるものの、固定費の適正化や調達コスト低減およびVEなどにより、34億円改善

VE: Value Engineering



事業別セグメント情報【プリンタ】

■ 為替による影響

➤ 売上高47億円減収、営業利益18億円減益

■ 売上高: 為替影響を除き30億円減収

➤ 本体、消耗品ともほぼ計画通り

➤ カラーNIP:

経済環境悪化によるプリンタ市場の停滞もあり、販売台数が減少

➤ モノNIP・SIDM他:

・モノNIPは前年後半の新商品投入効果により販売台数増加

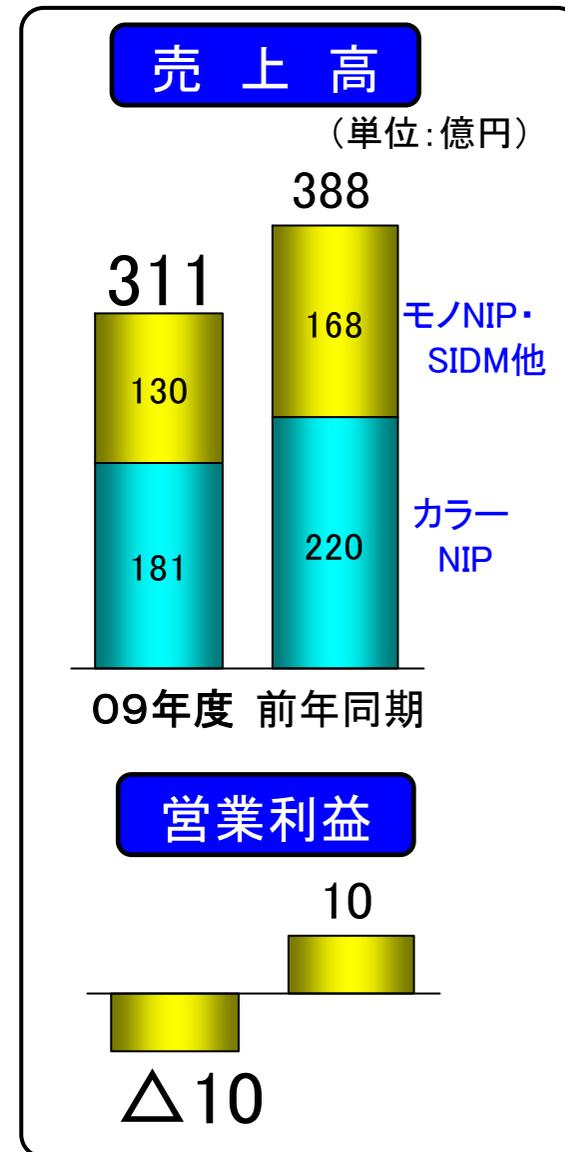
・SIDMは市場全体の縮小により販売台数減少

■ 営業利益: 為替影響を除きほぼ前年並み

固定費の適正化や調達コスト低減およびVEなど増益要因はあるものの、円高による影響や減収による限界利益の減少、価格下落などにより、20億円減益

NIP: Non-Impact Printer

SIDM: Serial Impact Dot Matrix



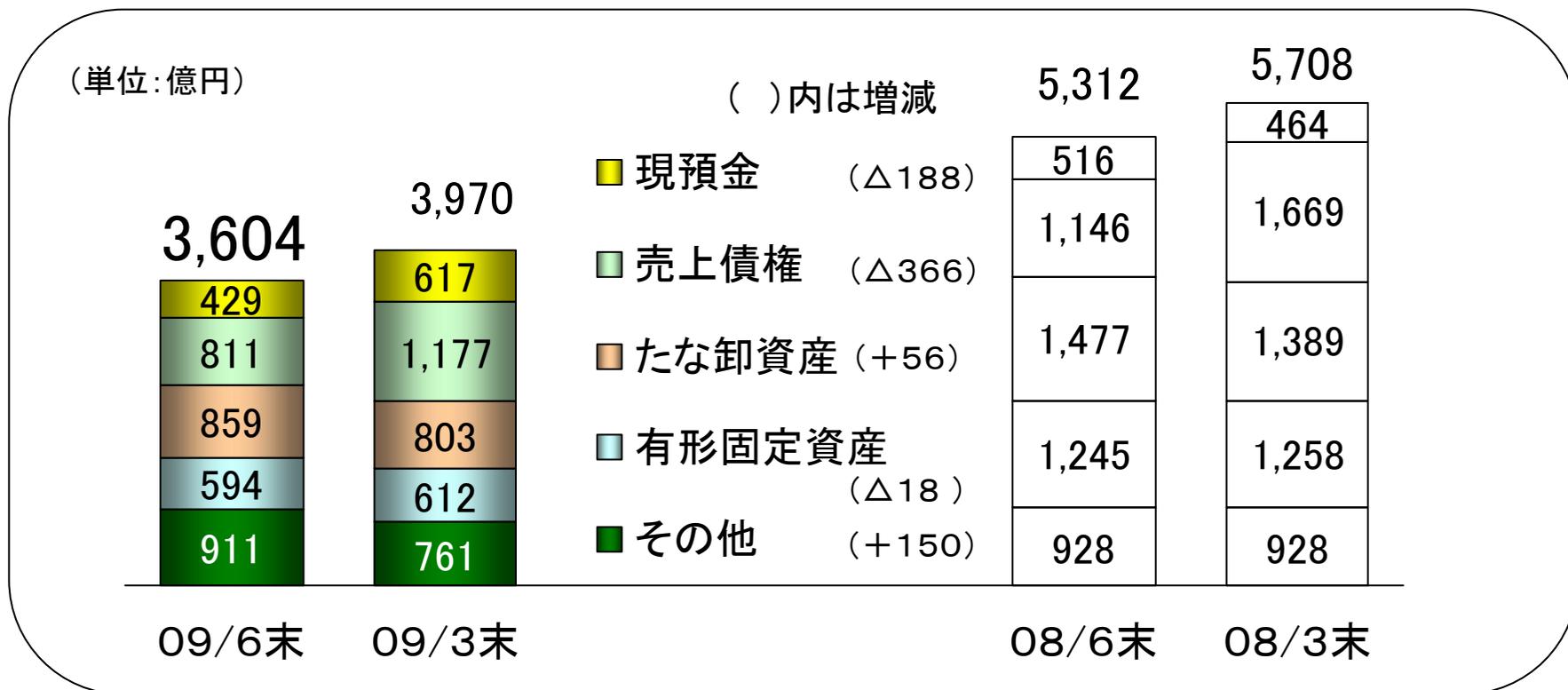
営業利益の変動要因

- 減収による限界利益の減少や価格下落、さらに円高による影響はあるものの、調達コスト低減およびVE、固定費の適正化などにより、前年比16億円増益

(単位:億円)		営業利益
	09年度実績	△31
	前年同期実績 (* 除く半導体)	△47
	営業利益増減	+16
主要変動要因	物量増減および機種構成差	△20
	価格下落	△10
	為替影響	△15
	調達コスト低減およびVE	+5
	固定費変動	+55

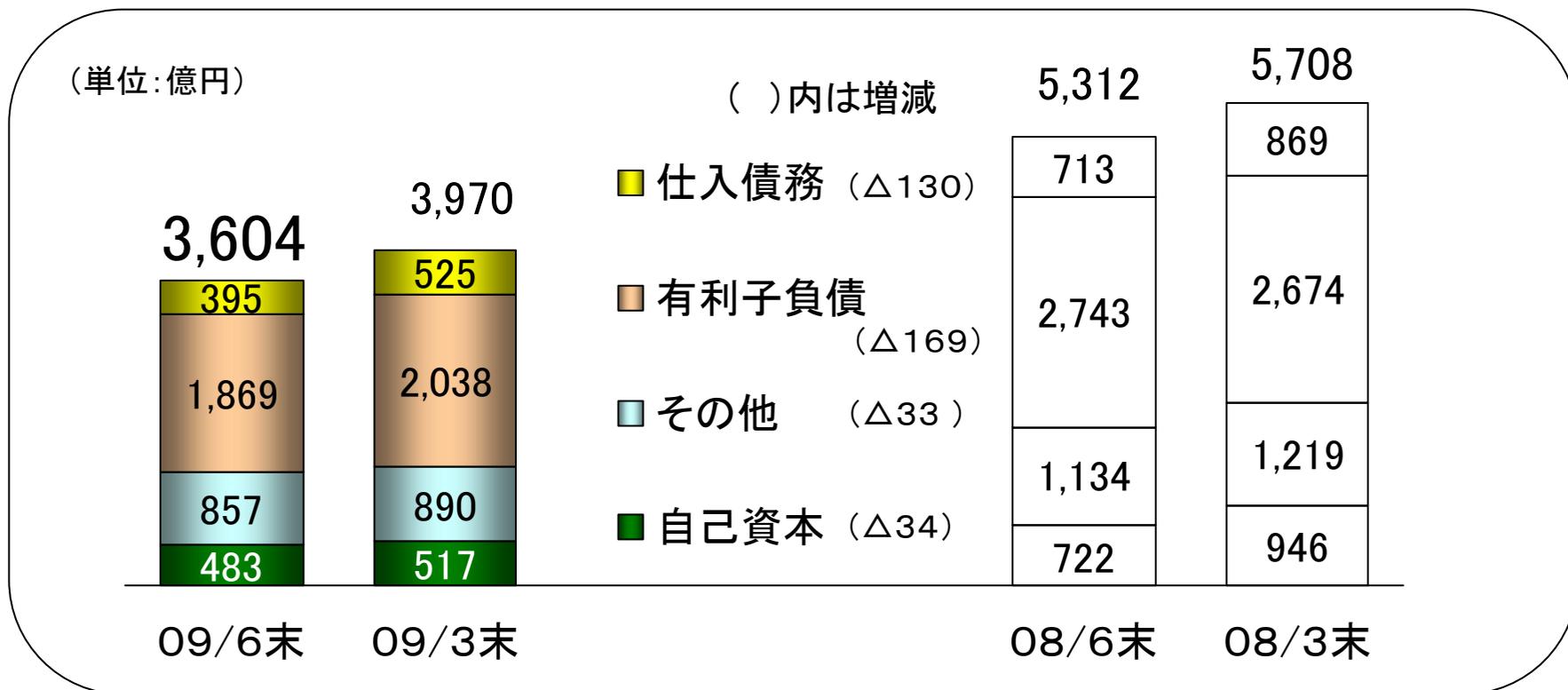
B/Sの概要【資産の部】

- 譲渡性預金による運用を行ったことから、有価証券(その他資産)が増加、現預金が減少
- 例年通り、前第4四半期の売上高が大きいことから
売上債権は3月末に増加し、翌四半期に現金等で回収されるため6月末に減少
たな卸は3月末に減少し、翌四半期には生産平準化等により6月末に増加



B/Sの概要【負債・純資産の部】

- 有利子負債は社債の償還などにより減少
- 自己資本は保有株式の評価額上昇による評価差額金の増加などがあるものの、当期損失があるため全体では減少



キャッシュフローの概要

- 当期純利益の改善を中心に、フリー・キャッシュ・フローは収入増
- 社債の償還などにより、財務キャッシュフローは支出増

(単位:億円)	09年度	*前年同期	備考
I 営業キャッシュフロー	154	63	
税金等調整前当期純利益	△58	△184	
減価償却費	37	78	
運転資金の増減	230	301	
その他	△55	△132	
II 投資キャッシュフロー	△23	△55	
設備投資支払額	△20	△46	
その他投資活動	△3	△9	
フリー・キャッシュフロー(I + II)	131	8	
III 財務キャッシュフロー	△189	52	
キャッシュフロー計(I + II + III)	△58	60	
現金同等物等の期末残高	591	561	

* 前年には半導体セグメントの数値が含まれる